開基５０周年記念碑

昭和３５年４月２１日建立

日光山多聞寺

大正２年、栃木県日光山内御営前の日光輪王寺の末寺から佐呂間町栃木に遷座された

栃木神社と神木

・明治四十四年四月三日に入植した栃木県足尾銅山鉱毒罹災者六十六戸の心のよりどころとして故郷宇都宮市二荒神社より大物主命事代主命三穂姫命の御祭神を移し同年六月十五日この地を栃木神社とした。

この神域は太古より神の鎮座ます地であったのか推定千年といわれる一対の雌雄のオンコの巨木があり、不思議にも男の老木から若木が伸び老若一体となる。これぞ開運隆盛の兆と部落民一同神木と称し敬神敬慕するにいたる。この思想を教育の基盤とし社殿兼用の児童教授所を建て大正二年六月一日に開校した。

開拓百年
躍進
先人の信念を讃え

国道３３３号　交差点の栃木地区案内看板

佐呂間町から北見市へ延びる国道３３３号　栃木入口交差点

阿部信夫氏の牧場

千葉清美氏の牧場

開拓百年
躍進
栃木開基百周年記念之碑
先人の偉業を讃え

阿部牧場開拓記念之地
勲七等
阿部利三郎

栃木部落の沿革

栃木部落は明治四十四年栃木県下都賀郡南部八カ町村の六十六戸が移住開拓したるを以て嚆矢となる抑々移住の動機は足尾銅山の採鉱精錬の開始されるに当り鉱毒を渡良瀬川に排流して顧みず其の為洪水毎に鉱毒は耕地に氾濫して農作物魚族を枯死滅亡せしめ農民生活は極度に疲弊窮乏し加うるに明治四十三年関東地方を襲える豪雨は渡良瀬川に未曾有の大洪水を齎し沿岸の惨状言語に絶し住民は悉く再起不能の被害蒙りたり時の栃木県選出代議士田中正造翁は一身を賭して此の苦難を打開せんと欲し足尾銅山鉱毒事件として十数年間政府に陳情請願し又銅山経営者古河市兵衛と争いしも遂に谷中村強制買収の方途によつて一段落を告ぐるに至つたのである茲に於て谷中村を追われし一部と鉱毒水害の罹災民中六十六戸の希望者が栃木県庁の斡旋に依り集団移民として北海道鐺沸村サロマベツ原野に入植することになり明治四十四年四月六日小山駅に集合県庁係官大貫権三郎氏郡役所係員並に赤十字看護婦二名に引率されて四月十四日武士小学校に到着四月二十一日丈なす熊笹を刈り分けて現地共同小屋に入り大貫権三郎氏より栃木部落の名称を授く其の後昼尚暗き原始林に開拓の斧鉞を入れ又他県移住者と共に凡ゆる困苦欠乏に耐え今日の発展を見るに至つたのである茲に栃木部落開基五十周年記念式典を挙行し記念碑を建立す

昭和三十五年四月二十一日

題字　栃木県知事　横川信夫
碑文　下野新聞社長　福島悠峰